令和３年度 第２回 糸魚川市都市計画審議会 会議録
（都市再生整備計画事後評価委員会）

<table>
<tr><td>日</td><td>令和４年３月１８日</td><td>時間</td><td>10:00　～　11:10</td><td>場所</td><td>市役所 203・204 会議室</td></tr>
<tr><td>件名</td><td colspan="5">議事
　議案第１号　都市再生整備計画事後評価（糸魚川駅北地区）について
情報提供
　糸魚川市移動等円滑化（バリアフリー）促進方針の策定について</td></tr>
<tr><td rowspan="2">出席者</td><td colspan="5">【出席者】
　髙瀬吉洋、中出文平、堀口裕子、藤田英志、杉田康一、田原実、近藤新二、
　堀尚紀(代理出席)、瀬戸民枝、伊藤輝夫、遠藤紀美子、小嶋ます子、斉藤冨貴子
【欠席者】
　磯貝正子
【事務局】
　米田市長（開会時のみ）
　斉藤産業部長
　都市政策課　五十嵐課長、大西課長補佐、田中係長、福光係長、宮路主査、山口主査、
　　田中主査
【その他】
　都市再生整備計画事後評価受託業者　３名</td></tr>
<tr><td>傍聴者定員</td><td>－　人</td><td>傍聴者数</td><td>１人</td></tr>
</table>

会議要旨

１　開　会

２　市長あいさつ

３　会長あいさつ

４　議　事

　都市再生整備計画（糸魚川駅北地区）について、得られた結果やその実施過程などを客観的に評価分析し、今後のまちづくりの進め方等について、検討・意見交換を行った。

【事務局】　資料に基づき説明
・計画目標と目標値の達成状況
・実施事業の概要
・今後のまちづくり方策

【委　員】　創業件数の５ヶ年間の実績値 12 件はどのような業種か。市内の方か、市外から来た方か。年齢的にどんな方か。

【事務局】　12 件は駅北エリア内の創業件数を集計。駅前ということで飲食店が多めだが、市全域としては飲食ではない創業もある。12 件は、ほぼ市内の方で、元々勤めていたが独立して店を持ちたいとか、違う業種で始めたいという方が、市が行っている創成塾という創業を支援する講習会等に参加した後開業。年齢は 30 代、40 代

が多い。

【委　員】　「目標の達成状況」の指標１について

「本町通りにおける平日８時～22 時の歩行者数を計測し、評価値とする」とあるが、これは何日間か計測してその平均値を出したものなのか、いつ頃計測したか。

【事務局】　糸魚川信用組合本町支店前で、毎年６月、平日と休日の各１日、通行数を統計的にカウントしているもの。平均ではなくて、特定の日の実測値を用いている。

【委　員】　平成 28 年 12 月 22 日に大火が起きており、その影響で平成 29 年は歩行者数が減るのは分かるが、その後、平成 30 年と令和元年は増えている。しかも、大火が起きる前の数字より多くなっている。相対的に前よりも人口が減っているだろうし、高齢化していると思われるし、店舗も少ないはずなのに、歩行者数が平成 30 年、令和元年と増えているのはどういうことか。

【事務局】　細かく分析はできないが、大火の後、店も少なくなり、住んでいる方も減ったというところで、平成 29 年は歩く方が大きく減っているというのは事実であり、その後、再建には２年、３年とかかっている。平成 30 年、令和元年に若干増えているところは、買い物客や住民が増えたというよりも、視察の方とか市外から様子を見に来る方というのが結構まちを歩いていたという印象があり、影響があったと想定する。

【事務局】　いろいろな話を伺うと、東京に出ていた子どもが、大火があったことをきっかけに帰省して状況を見ていったとか、そういう人が増えたようだ。

【委　員】（会 長）　大火のときに歩行者数が 240 人に落ち込み、令和２年と令和３年はコロナの影響で大火の時の更に半分ぐらいになっている。コロナの影響というのが、いかに大きいかというのが垣間見えているのではないか。

【委　員】　これまでの取組の中で、駅北広場キターレの存在は非常に大きいものがあり、今後のまちづくりの方策の中でも「若者や子育て世代がまちに増えることで、多様な世代が集って住み続けられるまちの形成を目指す」と書かれていたが、キターレの来館者はまちなかの方が多いのか、市内でもまちなか以外の方が来ているのか。世代間の交流や地域間の交流も大事なことと思っているが、来た方が、市のどのあたりから、年代はどれくらいかというのは、分析されているか。

【事務局】　統計的に明確に調べていないが、数で言うと駅北に住んでいる方自体が少ないので、全体に対しては市域全域の方のほうがたくさん訪れている。活動としては、新しい施設に足を踏み入れていただくのは若い方が多いように今のところ感じている。ただ、地元の方の健康教室、自治会の会議、区長さんたちの会議をここで行うことで、積極的に多世代の方に使ってもらえるようにしており、地区の皆さまからも利用いただいている状況。

【委　員】　駅北にこれだけのいろいろな予算がつき、いろいろな活動をしているが、何となく糸魚川駅北の周辺だけで動いているような雰囲気に受け取ってしまう。トワイライトエクスプレスの中で食事ができるというのも知られておらず、駅周辺で何かをやっているのだろうくらいは感じているだろうが、糸魚川駅の周辺の人が、一部の活発な人が参加しているという印象を個人的に受けてしまう。だから、いろいろな場面で、糸魚川市のここでこういうことをやっていますよとか、こんなふうに楽し

く食事ができますよとか、こういう人たちがこんなふうにお店を開いて頑張っているというのを、もう少し周知できるような仕組みをつくれば、参加者が青海、能生からも来ると思う。

【事務局】　非常に重いご指摘だと思っている。単発のイベントの周知はいろいろするが伝わらないとか、まちづくりの会議をやっているということに対しても知られていないということは、伝えることが下手なのかと思う。

トワイライトエクスプレスは外からのお客を受け入れるということ、キターレに関しては、多世代が交流できる賑わいの元になるようにという、それぞれ目的が違うのだが、それがうまく説明し切れておらず、伝え方は、まだまだ市の未熟なところである。逆に能生の駅前で地元の方が活動されているということを糸魚川の方に伝えるということも同じように大切だと思っており、今後は少しブラッシュアップしなくてはいけない要素だと考えている。

【委　員】　副会長に伺うが、いわゆる地方都市の土壌、そこにずっとあるものをどう変えていったらいいか。

十数年前、横浜へ視察に行き、赤レンガ倉庫の活用方法について、横浜市の職員から説明を受けた。「浜っ子というのは開放的で、３日住めば浜っ子」と言われて、その開放感から人が来ていると判断し、非常にうらやましいと感じた。

糸魚川のような地方都市だと、30 年住んでも地元民ではないようなことを言われるようなところもあり、その辺を変えないと、これからのまちなかの賑わいづくりというのも難しいと考えたりするが、外部からの意見をどうやって吸い上げてまちづくりの中に活かしていけばよいか、アドバイスをいただければありがたい。

【委　員】（副会長）　私は長岡市に来て 30 年住んで、外から来た人で、だからこそ好きなことを言えるというのがある。私は実は浜っ子であるが、開放的かというと私はそうでもないと思う。

横浜に３世代続けて住んでいる人はほとんどいなく、ほとんどは後から来ている人ばかりなので、あまり気にしなくてよいと思う。

逆に、私は首都圏２世代目で、ふるさとがない。横浜は母がいる家のあるところであってふるさとではない。横浜は好きだが、皆さんのように思い入れはない。

田舎の小学校の運動会などに行くと、おじいさん、お父さん、子どもが同じ小学校の出身だったりして、そういうところにみんなで集まっていけるというのはまさにふるさとがあるからで、それはものすごくいいことだと思っている。ふるさとを持っていることは、地方に住んでいる方のものすごい強みだと思うが、長年住んでいると、糸魚川の良さがよく分からなくなってしまうことはあると思う。

糸魚川には世界に冠たるヒスイがあり、日本に一つしかない糸静構造線も持っている。実は世界一のものを持っていれば世界からお客さんが来るはずなのだが、言い方が下手なのか。そういう意味で言うと、観光だけではなくて、シビックプライドといって市民の誇りになるものが実は糸魚川には幾つもあるはずだが、あまりそうは思っていない。ずっと住んでいて当たり前だと思っているからだと思う。

ご質問の、どちらかというと内向き、閉鎖的というところについては、年齢の問題もあると思う。今の 30 代ぐらいからは、そんなことを思っているわけはないの

で、40代ぐらいの方がもう少し中心になってくれば、どんどん開放的になっていくと思う。情報が日本全国から入り、ワールドワイドになってきており、我々のような年配者があまり前に出なければ、出る杭を打たないようにしていけば、どんどん良くなっていくと思う。それはまさに地方都市だからではなくて、日本全体的に。

ただ、若い人が、会合など、もう少しいろいろなところに出ていく気にならなければいけないと思う。

都市計画もそうだが、教育がとても大事。まちづくり教育、健康教育とか何でも、小学生、中学生くらいに刷り込んでおくと、ものすごく良くなる。一番端的なのは、私の世代はごみの分別、節電・節約は意識しないとできないが、今の子どもたちはシャンプー・洗剤の詰め替えは当たり前で、子どもたちから学ぶ親も多いと思う。子どもにいろいろなことが分かるような教育をするというのは、実は大都市より地方都市の方が、地元にふさわしい教育をやれるだけの環境がある。ゆとり教育などと言わなければならないのは大都市圏の問題であって、そもそも地方というのはゆとりの塊で、朝起きたら緑があって、いろいろな動植物が多様にあるという中でそういう教育をしていくことが大事。子ども、40代ぐらいまでの若手がしっかり動けるようになれば、自然とそういうのは解決すると思う。市の職員も部課長ではなく若手が動けるようにする、住民の方々もなるべく若い人がいろいろなことがやれるようにするというのが大事で、議員さんもなるべく若い人が多い方がいいかもしれない。

【委　員】　先ほどのおじいさんや父親から伝わるという部分では、糸魚川にもかつて花街があり、おじいさんのときは芸者さんが60名、父親のときは30名いた、そういったことが口づてで伝わってきていた。あるいは政治の話を、例えば酒蔵が中心になって裏で仕切ったとか、相馬御風さんの話を聞いたりしてきたのだが、私たちはそれを伝える子どもたちが目の前にいないものだから、この先、糸魚川のこのまちなかの文化をどう伝えたらいいかなと考えているところ。

一つの方法としては、何かライブラリーのようなものの中に、この糸魚川のまちにはこういう歴史があるのだということを伝えるスペースを作っていったらいいのではないかと考えているところだが、実体験がもうできないものをどう伝えるか、そのあたりはいかがか。

【委　員】（副会長）　それはいろいろなところで言われていて、例えば震災の記憶で言うと、東日本大震災ですらもう10年たつと実際に知らない子が多い。中越地震も15～16年たって、長岡にいる子どもたちはほとんど知らない。ましてや阪神・淡路大震災だと実体験しているのはもう40代以上の人で、体験した人たちはすごく覚えているけれどもどういうふうに記憶を残すかというときに、やはりちゃんと伝えていくことが大事で、建物は造らなくてもいいと思う。それは、だんだん人口が減って、職員が減ってきて、市役所のスペースが空いてきたらそういうところを使う。それから図書館のコーナーをそういうところに使う。移動式でもかまわないと思うし、やはりいろいろなものをちゃんと伝えていくことがすごく大事。

さきほどのシビックプライドというのは、わがまちはどういう場所に、どういうふうにできてきたかということ、その歴史と地理とを基にして文化は育まれていく

ので、その文化にはどういう背景があるのだということをちゃんと伝えていくということがすごく大事。18歳を過ぎると外に出ていってしまうから伝えにくいというのがあるとすれば、やはり高校生までにそういう教育をしておき、少なくともルーツに関しては知っているとしておくことが大事だと思う。

自分のふるさとはこんなにいいところだと子どもにちゃんと伝えておいて、自分たちが子どものときはこうだったという体験もちゃんと教えながら、自分はもっと上の人からこういうことを聞いているのだということを伝えるということは、すごく大事なことだと思う。

【委　員】 私が所属する組織の中で今回関係するところをまち歩きした時の感想について報告する。

案内看板の設置については、とても分かりやすく、特に初めて来た人や、糸魚川の歴史や大火について学ぶには非常によい。数も非常に多く設置してあり、場所によってデザインが少しずつ違っていて、駅の近くでは駅の外観に合わせたデザインになっている。

駅北広場キターレは、外観の色彩について景観に配慮している。駅北地区全体についてはガイドラインで色の誘導をしており、個々の住宅についても落ち着いた色を採用している点が良くて、一体感が出てきたのではないか。

トワイライトエクスプレスについては、初めて見たが、中で昼食もできるということで、もっと宣伝をしてもよいのではないか。例えば駅の自由通路付近に案内板を設置して誘導するとか、そういった工夫もした方がよい。観光受付の方に聞いたのだが、食事ができて非常に好評だということで、特にブラタモリの放送後、かなりお客様が来られ、中を見たりされている。~~特に~~ヒスイ海岸に行って石を拾ってくるとか、そういったお客様もそこで案内しているということで非常に面白い。

まちなか駐車場については、駐車台数も多く確保されてあり、とても役に立っている。こういった施設についてはもう少し増やしてもいいのではないか。

コロナ禍の状況の中、目標に対して数値が全然足りていないということで皆さん大変だと思うが、この大変な時期に一つ一つ積み重ねていくことが、この後、復興の時に花開いていくのではと思う。

（異議なしとして承認）

5　情報提供

糸魚川市移動等円滑化（バリアフリー）促進方針の策定について

6　その他

7　閉　会